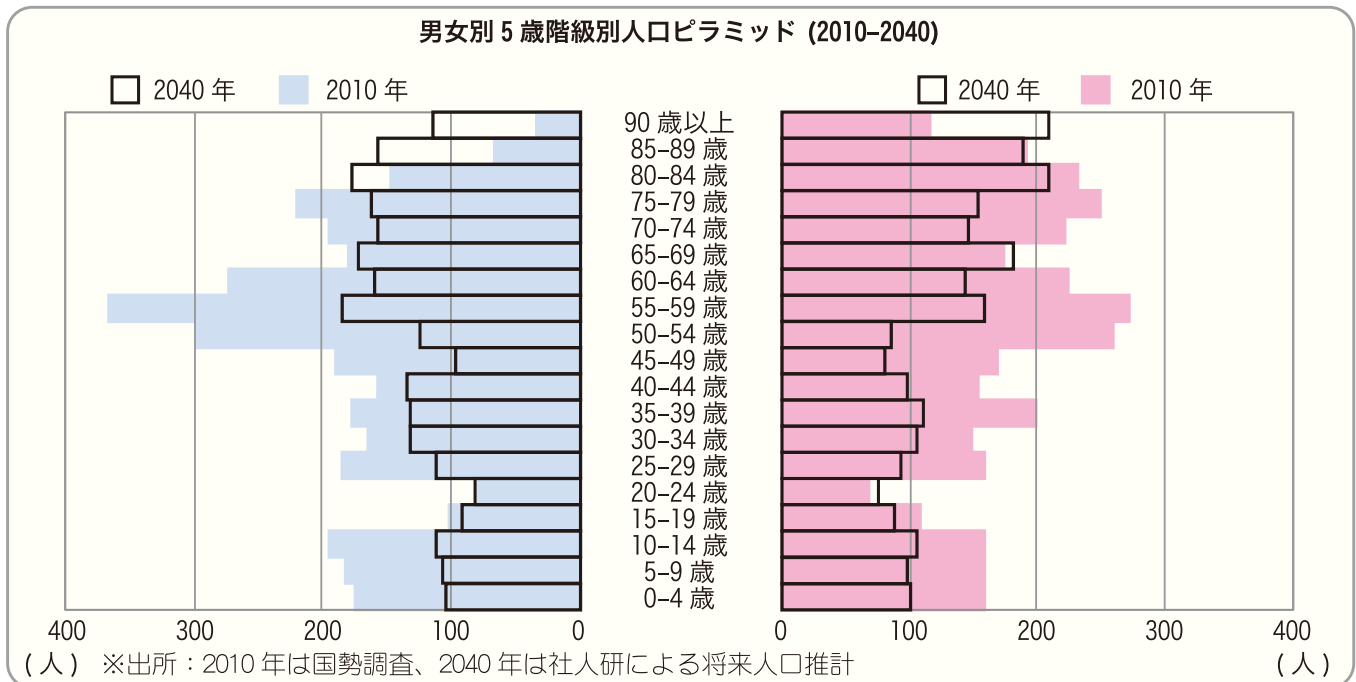
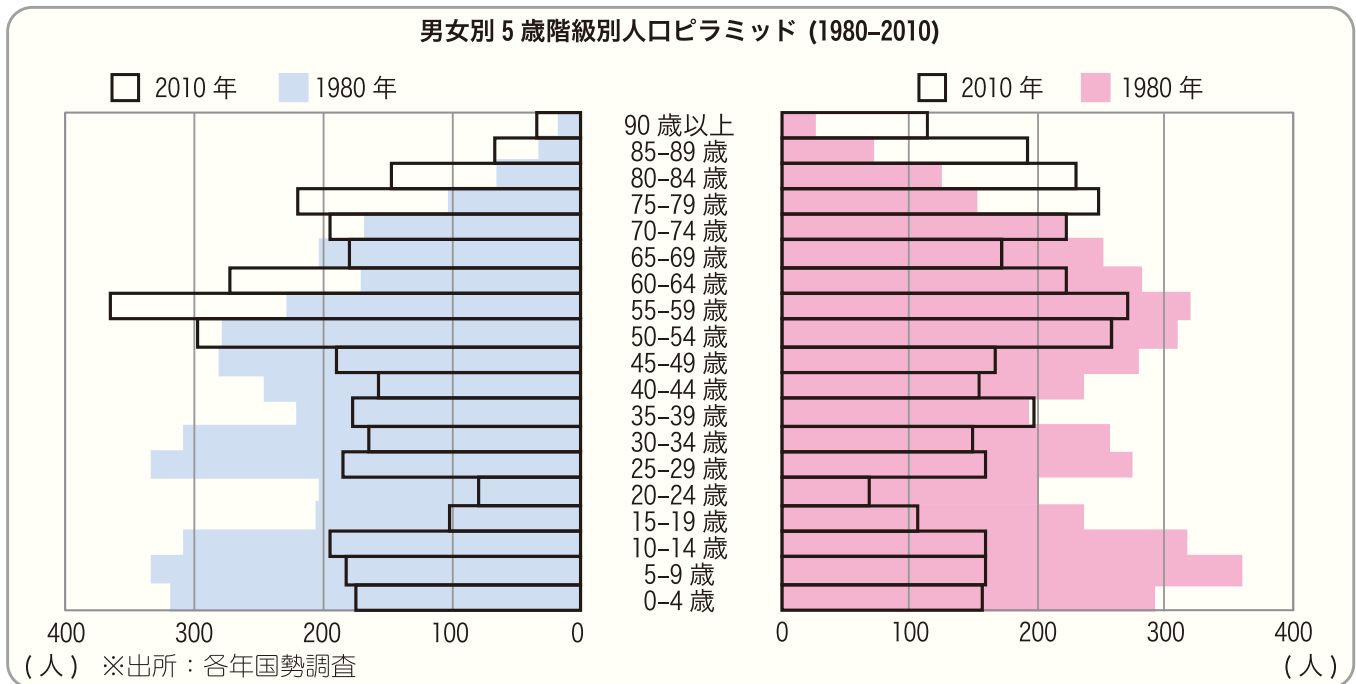


## ②男女別5歳階級別人口

男女別5歳階級別人口の推移について、1980（昭和55）年と2010（平成22）年と比較すると、男女ともにグラフ形状はほぼ同じで、1980年において団塊の世代（20～30代）のピークが、2010年の50～60代に推移しています。

2010（平成22）年と2040（平成52）年と比較すると、団塊の世代が80歳以上となり、グラフ形状はなだらかな逆三角形となります。



### 将来人口推計分析

①パターン1とパターン2の総人口の比較

パターン1（社人研推計準拠）は、2040（平成52）年までの自然増減、社会増減の傾向が継続すると仮定し、推計されたものであり、年間約50～60人の減少、5年間で約300人の減少の減少が続く推計となっています。

パターン2（日本創成会議推計準拠）は、全国の移動総数が概ね一定水準であると仮定し、2040（平成52）年まで推計されたものであり、年間約60～80人の減少、5年間で約400人の減少の減少が続く推計となっています。

なお、パターン2は、2035（平成47）年には、パターン1より5年先行する形で減少する推計となっています。

次のページへ